

平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、生徒が自ら以下の力を身につけられるよう、教職員が一体となり、多様な取組みを進めていく。 1 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育む力 2 地域に学び、志と希望をもって勉学に打ち込む力 3 将来の社会と人生を見据え、進路を拓く力
--

2 中期的目標

1 信頼される学校づくり （1）新学習指導要領を踏まえ、生徒の持つ学力を最大限に引き出す。 ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業に関する生徒アンケートの綿密な分析等に基づき、『使える英語プロジェクト』なども活用し「わかる授業、興味を持てる授業」をめざした授業改善に取り組む。あわせて、「朝の学習会（朝ガク）」の全学年実施により継続的に基礎学力の定着を図る。 ※生徒向け学校教育自己診断等における授業等学習活動に関する全ての項目の肯定率（「よく当てはまる」）を毎年５％以上引き上げる。 （2）卒業後の人生を見据え、規範意識と豊かな心をはぐくむ。 ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク」の充実、放課後の「居残り指導」を徹底する。また、授業規範の確立を図るため、授業の最初と最後に「起立、礼」の挨拶を行う。加えて、コミュニケーションの大切さを実感し身につけさせるため、「朝のあいさつ運動」を拡大する。 ※平成 26 年度には、遅刻総数を半減（平成 23 年度比）させる。※生徒向け学校教育自己診断等の規範意識に関する全ての項目の肯定率（「よく当てはまる」）を毎年５％以上引き上げる。※朝のあいさつ運動参加者（23 年度：11.2％）を平成 26 年度には全校生徒の 60％にする。 イ いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団づくりを推進する。 ※生徒向け学校教育自己診断等の人権に関する項目における肯定率（「よく当てはまる」）を毎年５％以上引き上げる。 （3）生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、『実践的キャリア教育・職業教育』支援事業を活用し「展望を持たせる取組み」を充実させる。 ア 現在の学年ごとの計画から、３年間を見据えた系統的な進路指導計画への改善に取り組み、平成 25 年度には『吹田進路プログラム（SSP）』を確立する。また、平成 23 年度から全校的に取り組みはじめた継続的な進学講習を定着・発展させる。 ※生徒向け学校教育自己診断等の進路指導に関する全ての項目の肯定率（「よく当てはまる」）を毎年５％以上引き上げる。 ※平成 23 年度から全校的に取り組みはじめた進学講習（23 年度：59 人）への参加生徒数を平成 26 年度には３倍増させる。 2 学校生活の充実・魅力ある学校づくり （1） こども未来専門コースの円滑な推進 ア 生徒にとっての「魅力ある学校づくり」の一環として、昨年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、大学等との連携強化をはじめ総合的な資質の向上に向けて円滑な推進に努める。 ※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度を毎年５％以上引き上げる。 （2） 生徒の集団や学校への愛着・帰属意識を高めるため、学校行事・部活動のさらなる充実、活性化を図る。 ア 行事を通じて得られる成功体験により生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるとともに、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会の主体的な活動を積極的に支援する。 ※生徒向け学校教育自己診断等における学校生活と特別活動の全ての項目の肯定率（「よく当てはまる」）を毎年５％引き上げる。 イ 入学時のクラブ紹介に工夫を凝らすなど、部活動への加入を促す取組みを計画・実施する。また、卒業生や地域との連携を深めるとともに、地域の小・中学生を対象にしたスポーツ教室や文化教室を開催する部を増やす。 ※部活動への加入率（23 年度：42％）を毎年５％以上引き上げ、平成 26 年度には 65％以上にする。 （3） 安心・安全な学校生活が送れるよう、教育相談体制の充実、ならびに保護者等との連携強化を図る。 ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、生徒情報会議を月 1 回開催し、課題のある生徒の早期発見・対応を図る。加えて、生徒相談室を昼休みと放課後に開放し、担当教員が生徒の相談に対応するなど、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができる体制を確立する。また、スクールカウンセラーによる相談日を年間 15 回設定し、生徒や保護者からの相談に対応する。 イ 体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時に P T A 実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。さらに、学校見学会を活性化し、より広汎な中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。 ※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談、保護者・地域との連携に関する項目の満足度（「よく当てはまる」）を毎年５％以上引き上げる。 3 校内組織・教職員集団づくり（組織的運営とボトムアップ意識の定着） （1） 運営委員会の役割を見直し、学校運営の機動性を高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、担任団、分掌、事務室等から学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、より積極的に提案される学校風土を醸成する。 ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画については運営委員会で議論を深めるなど、目標を共有した組織的、一体的な取組みをスピード感を持って行う。 イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整を円滑に行う。 ※教員向け学校教育自己診断等の「学校運営」の校内組織・教職員集団に関する項目の肯定率（「よく当てはまる」）を毎年５％以上引き上げる。 （2） I C T 等、校内ネットワークを活用し、諸会議の効率化に努める。 ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、職員会議はもとより各種会議資料等の簡素化、事前提供・周知を進め、会議時間の短縮を図る。 ※職員会議に要する時間を、平成 26 年度には 20％（平成 23 年度比）削減する。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
*保護者からのアンケート回答率 72.6％と、これまでの自己診断と比べて高い関心とご協力をいただいた。 【学習指導等】 ・授業規律については、生徒の約 8 割、保護者の約 7 割から肯定的な回答をいただき、教員からの回答との差も大きくない。 ・一方で、授業のわかりやすさ、興味が持てるかという設問では、生徒・保護者からの肯定的な回答は約 5～6 割で、教員が授業アンケート等の結果を踏まえて自ら改善に取り組んでいるという回答（8 割超）と比べて、成果が出	第 1 回（10/16） OH24 年度学校経営計画について ・人事異動で校長も教職員も変わるが、現在の目標設定が一定レベルに達するまで、現計画に沿った取組みを継続することが重要 ・目標設定について全教職員が繰り返し確認する必要がある。また、取組方法については個人に頼るのではなく、きっちりと制度化する事により、新しい教職員も目標を共有しやすくなり、学校全体の体制づくりがスムーズとなる。

ていない。 ・また、授業アンケートにおける各授業への肯定的な回答の平均値は約8割で、これらの差が生じた要因の精査と改善策の検討が喫緊の課題である。 【進路指導等】 ・進路希望に応じた教育課程の設定、ならびに進路HRや情報提供などの進路指導について、生徒・保護者の概ね7割を超える肯定的な回答をいただいた。 ・今年度、3年間を見据えた系統的な進路指導をめざして独自の「吹田進路プログラム」を策定し、すべての教職員が一体感をもって実践を行いブラッシュアップに努めていることへの評価だと喜んでいる。 ・次年度以降も「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」等もさらに有効に活用することで、引き続き、一人ひとりの生徒に向いあうきめ細かな進路指導を心がける。 ・加えて、本校HPに科目選択の流れとポイント、進路HRの内容等を掲載することなどを通じて、保護者の皆様にも十分にご理解をいただいたうえで、お子様とともに進路希望の決定に関わっていただけるよう努める。 【生徒指導等】 ・遅刻指導・染髪等に対する生活指導について、すべての項目において9割前後の保護者から肯定的な回答をいただいた。生徒からも過半数を超える肯定的な回答が寄せられており、実際に遅刻や違反行為が大幅に減り、同時に授業はもとより、学校行事や部活動についても生徒たちが積極的に取り組むようになりはじめている。 ・今しばらくは、生徒の状況に合わせ、保護者のご理解を得つつ、家庭と学校が協力してこれらの指導を続けていくことが重要だと考えており、そうすることで、生徒一人ひとりが指導の趣旨を正しく理解し、自らの行動を是正していくことができるようになってくれるものと大いに期待している。 ・体育祭・文化祭等の学校行事について、生徒・保護者ともに肯定的な回答が8割を超えており、事前準備や当日の様子は、学校全体として活気に溢れ、これまで以上に生徒が積極的に参加していた。 ・次年度以降も、教職員が一体となった働きかけを深め、何よりも生徒たち自身が充実していると感じられるよう、学校行事としての「中身の充実」を図るとともに、より多くの保護者が実際に体育祭・文化祭を見に来ていただけるよう、丁寧なご案内やメルマガ・HP等も活用した「丁寧な情報発信」を心がける。 ・教育相談についても、7割を超える保護者から肯定的な回答いただいた。また、概ね半数の生徒が、学校に悩みを相談できる場があると回答している。 ・同時に、9割以上の保護者が、教育相談体制のさらなる充実を期待しておられる。職員研修等の充実、相談室だより等の充実はもとより、地域の関係機関や専門医、保護者との連携を継続発展させ、学校内外での教育相談・支援教育への認知を高める工夫をすることで、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていく。 【学校運営】 ・内規を改訂し、首席・運営委員会を基盤としたミドルアップ・ダウンによる学校運営に取り組んだ。これまでの学校運営方式から大きく舵を切ったこともあり、肯定的な回答は教職員の4割程度にとどまったものの、学校としての教育目標の達成に向けて全教職員が日常的に議論を深める重要性、ならびに今後はこの方式で進むという認識が徐々に定着し、運営委員会自体が新しくなった運営委員会を動かしながら成長している。 ・引き続き、教職員が目標を共有し、本校の進むベクトルの向きを一致させたうえで、積極的に意欲的な教職員集団を作り、一丸となって機動的な学校運営を実現していくという組織原則を堅持し、めざす学校像の実現に努める。 ・諸会議の効率化については、6割以上の教職員が職員会議の時間が短縮されたと回答している。生徒に関わる重要な事項等については、十分な時間をかけるなどバランス感覚が大切だが、生徒と向き合う時間を確保するため、ICTの積極的な活用など、今後も全教職員が協力して職員会議の時間を短縮し、実際の取組みに時間をかける意識を高めていく。	○分掌・学年の取組みについて 【授業力の向上】 ・生徒が自分の成績を客観的に把握できる機会を増やしていくことで、その結果をバネに子どもたちも授業を大切にするように頑張れるので、そういう機会を増やしてはどうか。 【進路指導】 ・進路実現と日常の学びは必ずしも同義ではないものの密接に関連している。進路指導部だけの取組みではなく、チーム・学校全体で行わなければ成果にはつながらない。そのような仕組みづくりに取り組んでいるということなので、今後に大きく期待する。 【生徒指導等】 ・遅刻は、社会に出た時には認められない。それだけで大きく信頼を損なう。「朝ガク」＋「居残り指導」で大きな成果をあげているので、今後も全学年統一した指導で頑張ってもらいたい。 ・活発な教育活動を実践している学校は、概ね生徒会活動が活発である。とりわけ、積極的なクラブ活動を活性化させるために入学時の積極的な勧誘が必要 ・生徒（会）に対して的確なアドバイスをする教員がいれば、生徒は活発になる。生徒に、何をさせるのかを明確に示すことが重要 ・自転車マナーが悪い。事故を起こすと大変な金額の賠償が必要ともなるので、引き続き、しっかりと伝えて指導してもらいたい。 ・私学の高校では、学校内外でのあいさつや服装で受検者数の増減があり、生き残りをかけている。公立もきっちりとした生活指導はとても大切 ○学校教育自己診断について ・学校経営計画に則った設問となっており、成果も把握しやすいだろう。実施後の分析と出てきた課題への対応方策をきっちりと立てることが大切 第2回（3/8） ○H24 年度学校教育自己診断について ・膨大な量のアンケート結果に、一つひとつ丁寧に分かりやすく回答されており、学校の方針も明確に示されている。吹田高校の思いのほとんどが分かる労作で、高く評価したい。 ○分掌・学年の取組みについて 【生徒指導】 ・「朝ガク」は、1限目の授業が落ち着いて始められる環境をつくることと学力向上の2つを目標とし順調に進められており、引き続き、成果を期待する。外から見た場合、これからは学力向上に力点を置くのが良いのではないかな。 ・頭髮の帰宅指導や遅刻の居残り指導も大きな成果を上げているので、これからも続けてほしい。 ・「校内の清掃」について、学校教育自己診断では「そう思う」の割合が1桁である。生徒自身の環境美化に向けた主体的な取組みを引き出す働きかけが必要だ。 【進路指導】 ・3年間を見通した系統的な進路指導計画を策定しているとのことだが、この計画に基づいて着実に実行するようお願いしたい。 ・現在実施している進学講習を68%の保護者が知らなかったという結果が出ている。せっかく良い取組みをしているので、ぜひ認知度をあげる工夫をしてほしい。 ・来年度から「進学クラス」も設置され、吹田高校が変わりつつあることが外にも伝わってきている。この進学クラスについて、生徒の希望に基づいて編成するとのことだが、それでは希望者数によってクラス編成が大変になると思う。今後は進学クラスの数を限定することも考えたほうが良い。 【学校運営・会議】 ・内規を改定し、学校運営の中心に運営委員会を据え、部長・学年主任等によるミドルアップ・ミドルダウンに取り組んでいるとのことだが、学校現場で数多く行われる会議を効率化し、生徒と向き合う時間を確保するために有効な方法である。 ・全教職員にその方法と意識が定着するまでは、少し時間もかかるだろうし、運営委員の負担も大きいだろうが、月2回1時間程度の職員会議で教員への連絡や学校の方向性が共有されるよう、引き続き努力してもらいたい。 【授業力の向上】 ・生徒が先生の授業を評価することに、一定の危険性も感じるが、最終的にそれらを踏まえて校長が評価するのであれば問題ないと思う。 ・授業アンケートのとり方について、全科目のアンケートをHR等で一斉にとる方法が推奨されているようだが、生徒の実態も勘案して決定した方が良い。各授業の中でとる方法や何日かの終礼で取るという方法もある。学校の判断を優先してほしい。 【総合的に】 ・吹田高校の頭髮指導・遅刻指導が成果をあげ、進学にも力を入れはじめ、全般的に学校が良くなりつつあることは、地域でも評価されている。今後さらに「進学クラスが」が発展し、国公立大学に行けるような学校になったら、「うちの子も吹田高校に行かせたい」と思う。地域にそういう学校があることは非常にありがたいので、頑張ってもらいたい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 信頼される学校づくり	(1) 生徒の持つ学力を最大限引き出す ア・公開授業と授業アンケートの完全実施 イ・研究授業の充実とフィードバック ウ・「朝ガク」の全学年実施	(1) ア・教務部主導により、全教員が公開授業週間に2回以上の授業見学を行い、授業担当者に助言シートを提出する。また、授業アンケートを7月、12月に実施する。 イ・初任者は1・2学期に1回ずつの研究授業を行う。また、「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業、「使える英語プロジェクト」も活用し、教科ごとに年1回研究授業を行い教科全体として授業改善の意識を高め、授業力向上につなげる。 ウ・過去2年間の「朝ガク」の実績を検証し、全学年で実施する。	ア・イ ・生徒向け授業アンケートに今年度から「授業がわかる、興味が持てる」という質問を加え、「よく当てはまる」とする回答を30%以上にする。 ウ・年間を通じて、全学年で「朝ガク」を改善・実施し、今年度より学校教育自己診断等でその成果を検証する。	ア・イ・授業アンケート(7月)における授業に対する満足度(「よく当てはまる」)は35%で目標を達成できた。(◎) 次年度はさらなる向上をめざす。 ・初任者による研究授業(1回実施)以外は、すべて予定どおり実施でき、概ね目標とする成果をあげることができた。(○) ・次年度も、「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業、「使える英語プロジェクト」等を活用し、授業改善の意識を高め、授業力向上に努める。 ウ・自主的な参加形態から学年進行で導入し3年めとなる「朝ガク」は、試行錯誤の結果、現1年生で、不参加者に対して一定の強制力を導入することで、効果の実感(43%超)、遅刻者の激減、1限授業の落ち着いた開始に大きな成果をもたらした。(◎) ・次年度以降もさらに内容を精査しつつトータルとしての「学力の向上」に資するものとして継承する。
	(2) 規範意識と豊かな心をはぐくむ エ・遅刻防止の推進と「朝のあいさつ運動」の拡大 オ・授業規範の確立	(2) エ・遅刻生徒に対しては放課後「居残り指導」を行い、遅刻防止を強化する。頭髪指導・服装指導にも取り組む。 ・生徒会とともに全校的な「朝のあいさつ運動」のキャンペーンを展開する。1限に授業や当番にあたっていない教員も月に1回は参加する。 オ・授業開始前に机上の整備と授業の準備をさせ「起立、礼」の挨拶を励行する。	エ・平成24年度の遅刻総数を平成23年度比で、20%減少させる。 ・朝のあいさつ運動参加者(23年度:11.2%)を平成24年度40%にする。 オ・年間を通じて、全授業において指導を継続する。	エ・遅刻総数は65%減(H23比、H24.12現在)と大きく目標を超えた(◎)。朝のあいさつ運動参加者についても、参加者は45%と目標を超えた。(◎) 次年度は目標をさらに上方修正する。 オ・学校教育自己診断で、授業中の規律に関する設問に対する肯定的な回答は、生徒約80%、保護者約70%であった。次年度はさらに指導の精度をあげるとともに、生徒自らが主体的に行えるよう働きかける。(◎)
	(3) 展望を持たせる進路指導の充実 カ・3年間を見据えた系統的な進路指導計画への改善 キ・進学講習の定着・発展	(3) カ・進路指導部を中心に、1年生に対する3年間のスキームを策定し、全教職員に提示する。 ・学年による実践を踏まえながら、学校全体で年間を通じて成果検証と改善点の検討を行い、スキームをブラッシュアップする。 キ・平成23年度から全校的に取り組みはじめた進学講習(継続参加者数:59人)を全学年で実施するなど充実させる。	カ・平成24年度末に、新しい進路指導計画(案)を完成する。 キ・進学講習への継続参加生徒数を平成24年度は倍増させる。	カ・進路指導計画(案)がほぼ完成し、試行を重ねブラッシュアップ中(○)。 ・次年度は、策定した計画を各学年で積極的に実践し、さらに改善を加える。 キ・継続参加生徒数は84人と、目標に達しなかった(△)が、全学年で従前を大幅に上回る教科・科目で進学講習を実施でき、学校として計画的・継続的に進学講習に取り組む意識・体制ができた。(◎) ・次年度は、これを基盤とし、あらためて倍増をめざすとともに、全教職員はもとより、保護者と一体となった、よりきめ細かな進路指導に努める。

府立吹田高等学校

2 学校生活の充実・魅力ある学校づくり	(1)学校行事・部活動の充実、活性化 ア・行事を通じ生徒・生徒会の主体的な活動を支援 イ・部活動への加入促進 (2)教育相談体制の充実、保護者等との連携強化 ウ・適切な支援・指導体制の確立 エ・交流機会の拡大	(1) ア・生徒会役員以外の生徒も巻き込んだ実行委員会で体育祭・文化祭などの行事の企画・運営を行うなど、生徒の主体的な取組みを支援する。 イ・体験入部期間中に、1年生全員を必ずどこかに参加させ、部活動への加入を促進する。 (2) ウ・生徒相談室、保健室、担任などからの生徒情報を保健部主導による月に1回の生徒情報会議で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。 エ・体育祭・文化祭などの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時にPTA実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、質疑応答を行うなど双方向的な関係の深化に努める。	ア・体育祭・文化祭に関する生徒アンケートでの満足度を平成24年度は80%にする。 イ・部活動への加入率(23年度：42%)を、平成24年度は50%以上にする。 ウ・エ ・生徒・保者向けアンケートを行い、教育相談、保護者・地域との連携に関する項目の認知度(「よく当てはまる」)を50%以上にする。	ア・学校教育自己診断における体育祭・文化祭に関する生徒アンケート結果で、すべての学年で肯定的な回答が80%を超え、目標を達成した。(◎) ・次年度も今年度のアンケート結果を詳細に分析し、「思い出づくり」にとどまらず、さらに人間的成長をめざした指導を継続したい。 イ・仮入部の完全実施に向けた工夫等も功を奏し、新入生の部活動への加入率は52%に向上し、目標を達成した。(◎) ・次年度以降も、さらに活動の質の向上、生徒の主体性の向上等をめざすとともに、加入率についてもあげていきたい。 ウ・エ ・「気軽な相談」に対する肯定率は、生徒・保護者ともに約20%と、認知度とは若干異なるが、目標の「よく当てはまる」50%には達しなかった。(「どちらかという当てはまる」を加えると、生徒約54%、保護者67%)(△) ・一方、保護者アンケートで83.5%の方から「きめ細かな教育相談体制の充実を期待する」という声をいただいた。この声を真摯に受け止め、次年度以降もさらに効果的な対策を行っていきたい。 ・その他の教育相談に関する目標については、すべてクリアできた。(◎) ・学校行事への保護者の参加、PTA活動への教職員の参加についても、参加者数・関わりの深さともに一定向上した。次年度もさらなる向上めざす。(○)
3 校内組織・教職員集団づくり	(1)学校運営の機動性の向上と積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築 ア・運営委員会による目標を共有した取組みの推進 イ・首席を中心としたグループ内の円滑な連絡調整 (2)諸会議の効率化 ウ・会議時間の短縮	(1) ア・運営委員会の役割を見直し、教育目標の達成に向けた取組みなどの議論を深め、スピード感を持って目標を共有した組織的、一体的な取組みを行う。 イ・平成23年度に分掌再編した学務グループ(教務部・進路指導部)と生徒グループ(生徒指導部・生徒会部・保健部)が、各グループ長である首席主導によりそれぞれのグループ内の相互協力体制を確立し、組織的校務運営の効率化を高める。 ・担任団や各分掌・事務室等から、教育目標の達成に向けた具体的な改善方策や新たな取組みを、積極的に提案する。 (2) ウ・メーリングリストや共有フォルダを活用し、職員会議の資料をできるだけ簡略化する。 ・メール等で情報共有した連絡事項はなるべく省略し、職員会議に係る時間を軽減し、生徒と向き合う時間を確保する。	ア・イ ・学校運営に関する教員向けアンケートを実施し、校内組織の機動性・教職員集団の活性化に関する項目の肯定率(「よく当てはまる」)を50%以上にする。 ウ・職員会議に要する時間を、平成24年度には10%(平成23年度比)削減する。	ア・イ・学校運営の円滑化、協働意識の向上に伴う教職員集団の活性化に関する教員向けアンケート結果は、「どちらかと言えば当てはまる」を含めて41.3%で、目標は達成できなかった。(△) ・これまでの学校運営の形態を大きく改訂する内容であり、一朝一夕には成果の出にくい項目であるが、推進の中心となる運営委員会(機能)は今年度の経験により大きく成長している。 ・次年度以降も、積極的に意欲的な教職員集団を作り、機動的な学校運営を一丸となって実現していくという組織原則を今後も堅持し、定着に努める。 ウ・内規の改定により、職員会議の形態を変更したので正確な比較は困難だが、ICT等の活用等、多様な工夫により2週間に1度の会議に要する平均時間を約1時間にまで短縮できた。(◎) ・次年度以降も、生徒と向き合う時間を確保するため、会議に要する時間を引き続き1時間程度に収めるとともに、教職員の意識統一に向け、より充実した議事進行に努める。